

かずさ国府はどこ？

稲荷台1号墳記念広場。日本最古の王賜銘鉄剣が発見された墳丘を3分の1のスケールで復元している

[目次へ](#)

[学びの頁へ](#)

上総国府はどこ…

はるか昔、千葉県
房総半島は、「総（ふ
さ）の国」と言ったよ
うです。その後、上総
の国と下総の国とな
り、また上総の一部が
安房になり、それぞれ
行政を司る役所（国
衙）が置かれました。
この役所が置かれた地
域を国府または府中と
言っています。

上総の国府は、今の
市原市、下総の国府は
市川市、安房の国府は
南房総市にありまし
た。

しかし、今もってこ
の役所の明確な跡地が
明らかになっていませ
ん。なにしろ今からお
よそ1300年近い前
のことですから無理も
ありません。長い時の
なかで風化してしまっ
ているのです。

全国に60余りの国
府が置かれたようで、
その各地の国府跡もほ
とんどが同様のようで
す。ここだ、とするも

国府の場所は…

国分僧寺と尼寺

遺跡は物語る



この阿須波神社は国府の北西の位置に祀られ土地の守り神で、古代から防人らが旅の安全を祈ったといわれる。



この神社のすぐ横を古代道が通っていたという。海岸の方から市原台地へ上る官道が発掘され国分寺へ向かっている。



上総国府が置かれる前から存在したと言われる光善寺は伝説が多く麦飯石や孝標の女も使った？井戸も。柳権神事の出発地。



この寺には室町時代の石灯笼などもある。付近から古い瓦が多量に出土し国府があった所ではないかとの説も（市原説）。



市原八幡神社は飯香岡八幡宮（八幡宿にある）の元宮の関係だとされ柳権神事（県無形民族文化財）を氏子が執り行っている



郡本八幡神社の周辺は市原郡の郡役所と推定され、ここの地名が古甲で古国府（ふるこう）と読め（古甲・郡本説）となっている

のが無く、所在不明というのが現状のようです。

最近の報道

(2014年3月3日)では、香川県の讃岐国府がほぼ確定され、明治時代からの論争に一区切りできたと、出ていました。事ほど、所在地の確定は困難のようです。



そこで、この謎解きと共に歴史的にも素晴らしい遺構があるのだよ、と観光面からも市原市をアピールする市民ボランティアが発足しました。

「かずさのくに国府探検会」という観光ボランティア団体です。

市内遺跡を訪ね歩き学説・調査資料の紹介や由来を説明をするツアーを開催しています。



AとBの二つのコースで、月毎に一回開催しています。2013年11月に発足以来、ほぼ毎月実施されているようです。



このAコースと、Bコースに参加してみました。

このボランティアの歴史ツアーで、埋もれた謎に接し「へー、そうだったのか…」と、知らない千葉の歴史をまた一つ知り、興味を持ったのでした。

参考：かずさのくに国府探検会のサイト



郡本神社の基礎に大きな石が使われている。国府の大型建物の礎石を再利用かと推測。周辺からも貴重な陶器などが出土。



古甲説のある周辺を歩く。かつての古代道の側で、今は畑と住宅となっているこの周辺から基壇や区画溝が出ているという。

まぼろしの上総の国の国府は…

新しい国家づくりのスタートとなった大化の改新(645年)で、全国の行政を確立する律令制が設けられ、国郡里の制度が出来ました。全国に66の国府が置かれたといわれています。房総半島の総(ふさ)の国にも上総と下総の二ヶ所(その後安房の国)が置かれたのです。

では、その上総国府があった位置は、どの辺なのか？

いま推定されている所在地はいろいろ説がある中で、市原台地南東の平地の「村上地区」と市原台地の「市原・郡本地区」の2か所に絞られています。そのほか地元で、説を唱える方もおり、大正時代に学校の先生だったトキタさんは、光善寺周辺の「市原地区」を、また、役所の位置は時代と共に「移動」したのだ、とするこれも地元の方が最近、述べています。

台地上には古代官道が走っていて、その周辺には多くの遺跡や伝承説話があるようです。ツアーに沿って訪ねてみました。

阿須波神社：ここからは目の下に館山道の高速道路が見え、崖下に住居と田んぼが広がり、遠く五井の工場群が望めます。この神社は「戌亥(いぬい)の社」として、国府などの役所や役人の住居から北西の位置に祀られ、土地や屋敷の守り神だそうです。古代の官道が、この台地へ上って来て社の横を通っています。旅の神様でもあるここで、上総の国府に出入りする人たちが旅の無事を祈ったでしょう。また境内には、防人の万葉歌を刻んだ碑が立てられ、万葉歌神社でもあるのです。

光善寺と市原説：「光善寺廃寺」の地。かつて光善寺は、上総国分寺が創建される前に既に存在していたといわれ、この地方の仏教の中心だったと考えられています。国分寺の創建瓦よりも古い瓦などが数多く出土しており、この寺近くに国衙(役所)があったのでは、と推定地の一つ(市原説)となっています。

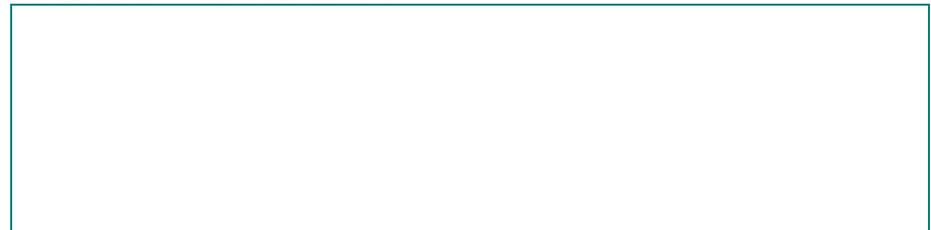
また、この地で、県指定の無形民族文化財の「柳榎神事」の出振舞が行われます。やく2キロ先の八幡宿にある飯香岡八幡宮の秋の例大祭に先立つ神事で、室町時代から600年続いているそうです。

市原八幡神社：この神社の氏子総代が柳榎神事を執り行うそうです。柳榎を作り光善寺から市原八幡神社、阿須波神社へと回り、古代道を進んで、途中で一泊し飯香岡八幡宮へ柳榎を届け大祭が始まります。こうした関係から飯香岡八幡宮の元宮であったと、されています。

古甲・郡本説：地名は過去の事象を語ることがあり、古甲は古国府(ふるこう)と読み、古甲地区はかつて国府がここにあったのではと思わせませす。高級な陶器類や大型の区画溝などが見つかっており、郡本地区の郡本八幡神社の西側に大きな溝が発見されており、大型の建物があったようで、カワラケも多く出土し、郡の役所があったのではと推定(古甲・郡本説)されているのです。

村上説：養老川の右岸にある小湊鉄道の上総村上駅を中心に広がる地域を推定地に挙げています。この地は、台地の東南の下にあり「惣社(総社)の地名があります。総社は国府の近くに置かれていること、さらに周囲に溝がある掘立柱の建物群が見つまっていることなどから、二人の学者(石井説と須田説)がここを推定地にあげています。

探検会のツアーで歩いたAコース



http://www.maroon.dti.ne.jp/sc19ob/
写真は拡大できます



光善寺廃寺跡の説明のところで、柳楯神事が出てきました。市原地区の方が大切にされている行事で600年も続いているそうで、今年2014年は、9月3日に行われました。その神事を具にゆきました。この神事は、飯香岡八幡宮の秋季例大祭にまつわる行事で柳楯が到着して大祭が始まります。



かつての光善寺跡で出振舞の後、市原神社で拝礼、阿須波神社で旅の祈願し、奈良時代には古代道で、いまは田んぼの中の道を進む「柳楯」。運ぶのは市原地区の司家の方々。五所地区で引き渡し式が行われ一泊し翌朝、飯香岡神社へ向かう。

上へ

Copyright ,All rights reserved.